



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯学部長 榎 宏太郎

平成31年4月1日より、歯学部長を拝命致しました。

昭和59年に本学を卒業してから35年を経て、再び、学生の頃のように旗の台で過ごす時間が多くなっております。

ここに皆様にご挨拶申し上げますとともに、抱負をご紹介します。

[1] 学ぶ楽しさ、知的好奇心を賦活する学生教育へ向けて

ご存知のように、平成15年に宮崎前歯学部長と岡野元教育委員長によってスタートした本歯学部の教育改革は、社会の変容に柔軟に対応すべく新たな教育理念を掲げ、全国的にもその先進性が広く知られるものとなりました。

このカリキュラムに含まれる1) 医学的素養を持つ歯科医師の養成、2) 早期体験学習、3) スパイラル教育、4) 問題基盤型学習(PBL)の導入、5) 診療参加型実習、という基本は今後も踏襲しながら、スパイラルに起因する問題点を早期に修正し、臨床実習や卒業後臨床研修もさらに充実させたいと考えております。

また、講義の質の改善として、単なる暗記に偏ることなく、生体のメカニズムや疾患発生の機序をよりわかりやすく説明するとともに、各領域における未開拓な領域や問題点をも積極的に示すことで、個々の学生の知的好奇心を誘起するよう教員に求めます。講義から、歯科医学の面白さを感じ、自らも学び進んだら、いつの間にか国家試験に通る実力を有していた、というのが理想です。

そのためには、学生からの意見を丁寧にくみ取り、素早く教員側へ反映させるつもりです。

[2] 本学独自の卒業教育体制の確立

また、将来へ向けた歯学部の成長戦略として、臨床研修後に各講座や診療科でさらに高度な研究や技術を学びたいと希望する者を増やさなければなりません。

そのためには、大学院を主体とした各講座の研究の展開速度を増すとともに、高度な臨床術式の教育を含んだ、他校には見られない専門コースなども創出して競争優位性を獲得したいと考えます。これは、



歯科病院の活性化や基礎系の人材育成とも密接に関連します。

[3] 歯科病院活性化のさらなる推進

歯科病院においては、馬場歯科病院長、飯島、代田両副院長の指導のもと、自費診療件数の増加、手術件数の増加、予防歯科の確立、病院全体のホスピタリティの改善、などが遂行されます。解決すべき課題も数多くありますが、教職員はとて充実し、やりがいを持って働かれているように見受けられます。今後は、診療システムの統合化や効率化と、より先進的な診療技術の導入を検討します。

建物は古くても、昭和の歯科が一番だ、と言ってもらえるよう頑張りましょう。

[4] 先進的な研究・開発を奨励

すでに、一講座が単独で研究を進められる時代ではありません。

基礎と臨床の別なく、企業や他大学との協力体制の構築を推奨し、新たな歯科医療・歯科医学の社会的価値を示すような研究開発と知的所有権の獲得を推進したいと考えます。

歯科医学の多くは、大胆な発想の転換を図らなければ、従来からの壁を突破することはとても難しい状況にあるように思われます。学部全体でこの危機感を共有しなければなりません。学生を含めた若い頭脳に大胆な科学的想像力を求め、ベンチャー育成のような、具体的な支援策を探りたいと考えております。

本学の素晴らしさは、学生への支援が手厚く、個々の学問や将来への様々な思いを許容する懐の深さであると感じております。

このような伝統を守り、医療人としての誇りと理想を全ての学生と教職員が得られるよう、歯学部として最大限の努力をするつもりです。

何卒、皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

昇任・採用

広報委員長 中村 雅典

西野(花澤)智美講師(歯科放射線医学部門)

黒田 沙助教(歯科放射線医学部門)

逸見百江助教(口腔微生物学講座)

受賞

広報委員長 中村 雅典

第4回口腔医科学フロンティア研究会 奨励賞

口腔病理学部門 田中準一

昭和大学入学式が行われました

歯学部長 榎 宏太郎

平成31年4月12日、明治神宮会館におきまして昭和大学入学式が挙行されました。

午前10時、前日の陽気に比べて少しだけ肌寒さも感じられましたが、桜咲く深い森に囲まれた神宮会館に集われた新入生とご父兄の皆様は、喜びとともに緊張した面持ちで、会場に入られました。

本年度は、医学部113名、歯学部97名、薬学部200名、保健医療学部看護学科109名、保健医療学部理学療法学科36名、保健医療学部作業療法学科18名の新入学者を迎えました。



昭和大学管弦楽団による美しい演奏の後に、小出学長が告示として、本学が上條秀介博士の「国民の健康に親身になって尽くせる臨床医家を養成する」という願いのもとに設立された歴史をご紹介され、「至誠一貫」に示される大学の理念について詳しくご説明されました。続いて、小口理事長より、8付属病院群と六千人超規模の職員を擁する本学の概要とともに、医療人を育成する使命の重要性、医療人として社会に貢献する喜びをご教示頂きました。会場は咳一つなく、新入生の皆さんは、本学の歴史の厚さと高邁な理念に触れることが出来たものと思われま。列席させて頂いた我々も、改めて襟を正した次第です。

その後、昭和大学宣言、グリークラブとアカペラ部による校歌斉唱が、厳粛な中にも温かな雰囲気で行われました。

続く、新入生歓迎プログラムでは、ラグビー部員二名が歓迎の辞を述べてくれましたが、会場は笑いの渦で満たされ、一挙に新入生の緊張が解かれました。最近の学生も、なかなかやるようです。Medical All Stars による演奏と応援指導部によるエールも披露され、部活の面白さを存分に伝えられたと思います。

続いて、内田樹理事による特別講演では、先生が過ごされた学生時代の世情から、社会の変化を予測することの困難性が語られ、我々が医療人としての人生を歩む上での、柔軟な考え方や処し方を併せ持

つことの意義をお教え頂きました。

閉式の後、会館前の駐車場には十数台の大型バスが整然と並び、新入生はバスごとに誘導されて乗り込み、富士吉田へと向かいました。

喜びに満ちた顔、ご父兄とのお別れに涙する顔、寮生活への緊張感を見せる顔、様々な若者を見送りながら、「大丈夫、心配するな、輝け！」と心の中で叫んでいる四十年前にタイムスリップした自分を感じておりました。

彼らの充実した医療人としての人生を心より祈念致しております。

大学院入学式が行われました

歯学研究科長 高見 正道

平成31年4月6日午前10時より、平成31年度大学院入学式が上條講堂において挙行されました。昭和大学管弦楽団による演奏の後、小出学長より告示と小口理事長より祝辞が述べられました。今回は、医学研究科52名、歯学研究科27名、薬学研究科11名、保健医療学研究科9名(修士過程8名・博士後期過程1名)が入学しました。

歯学研究科の入学者のうち7名は社会人枠で、昭和大学以外の出身者は8名(1名は中国の南京大出身)でした。小出学長は、昨年度に比べて入学者の人数が増加したことを喜ばれ、小口理事長は、ご自身の大学院時代の経験に基に入学者を激励されました。各研究科長の挨拶では私が、「研究は”競争と協力”の世界であり、多くの研究者の力を借りて競争に勝って欲しい」と述べました。最後に新入生代表として歯学研究科の高橋侑嗣さんが昭和大学宣言を行い、校歌斉唱をもって閉会しました。



入学式の後、各研究科に分かれてオリエンテーションが開催され、桑田大学院運営委員長がマルチドクターコースの入学者3名も含めて履修の注意事項などを解説されました。新たな一歩を踏み出された入学者の皆さんのご活躍を期待しています。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

5月 7日(火):東日本大震災被災地入学者
奨学金授与式

5月11日(土):旗の台校舎公開講座

5月25日(土):旗の台校舎公開講座

5月28日(火):特別奨学金採用式

昭和大学入職式が行われました

歯学部長 榎 宏太郎

平成31年度学校法人昭和大学入職式が4月1日に明治神宮会館で行われました。

本年度の入職者数は、教育職員264名(うち専攻医144名)、臨床研修医100名、歯科臨床研修医91名、事務職員64名、看護職員355名、医療技術職員85名、総計959名となりました。

朝方は少々寒さも感じられましたが、快晴に恵まれ、深い緑に囲まれた会館は、新入職員とご父兄の方々の喜び溢れる顔で明るい雰囲気になっておりました。

小口理事長の訓示では、本学の現状の規模とともに、輝かしい発展の歴史、そして、将来に向けた構想が説明されました。さらに、建学以来受け継がれてきた「至誠一貫」の精神を常に持ち続け、真心を持って国民一人ひとりの健康を守るために尽力することを使命とする旨の言葉を賜りました。

続いて、小出学長から、全ての職域において医療人としての誇りと責任を持って職務を全うする意義を祝辞として頂きました。



その後、辞令の交付、新入職員宣誓、昭和大学宣言の唱和、校歌斉唱へと式は進められました。

新しい職場への期待と不安を胸にした若者たちは、改めて昭和大学宣言の高邁な理想を思い出し、校歌にある、まるで現代の自分たちを予想していたかのような歌詞に驚かされたかもしれません。昭和大学で働く毎日にそれぞれが生きがいを感じ、明るい人生を送られることを心より祈念致しております。

至誠塾入塾式が開催されました

美容歯科学部門 菅井琳太郎

平成31年4月3日(水)に旗の台校舎1号館5階会議室において至誠塾の入塾式が執り行われました。今年度の入塾生は医学部、歯学部、薬学部、看護師ほか事務職員などを合わせて17名となりました。

私たちは至誠塾で2年間、小口塾長、副塾長並びに特別講師の先生方よりご指導を頂きます。1年目は学務や学校法人の管理運営全般について1時間の講義のち、決められたテーマについて各グループで討論を行い、最後に討論の内容を全体で発表します。2年目は塾生各自で研究テーマを決定し、1年間でプロダクトをまとめます。入塾式では小口塾長よりこれからの昭和大学の一端を担う一員として成長していくようにとのお言葉をいただきました。入塾式終了後は地下一階の食堂にて歓迎会を催していただき、2年生の先輩方との親睦を深めることができました。

これから毎週水曜日に様々なテーマを学習していくことに不安はありますが、昭和大学を背負う一員としての自覚を持ち、精一杯努力していきたいと思っております。



富士吉田教育部兼務教育職員に就任しました

口腔病理学部門 美島 健二

この度、口腔解剖学講座の野中直子准教授とともに富士吉田教育部兼務教育職員を拝命致しました。本年度は、4月12日の明治神宮会館で開催された入学式の後、96名の新生がバスで富士吉田校舎に移動しました。富士吉田教育部と言えば、富士山の麓における学部の垣根を越えた全寮制生活で、本学のチーム医療学修の礎をなす部分となります。その教育内容としては「チーム医療の基盤」「医学・医療入門」「ヒューマンコミュニケーション」「基礎サイエンス実習」など教養科目に加え、専門科目の学修も行われています。また、初年時体験実習として、歯科医院・診療所見学実習や高齢者の居宅訪問など充実したカリキュラムが実施されています。本実習は、3年次に実施される歯科医院・診療所見学実習や5年次に実施される高齢者の在宅訪問実習へと継続的に実施され、早期体験実習という意味でも大切なものとなっています。また、昨年度より、これまで2年次で行われていた「歯の解剖学」などの一部の基礎系科目が1年次での履修となりました。今後、基礎・専門科目の学修がより効率よく行えるように、全体カリキュラムの見直しが行われる予定となっています。

これから富士吉田教育部の先生方と協力して、1年次の学生教育がより充実したものとなるよう尽力したいと思います。

宮崎先生、島田先生の退職記念講演会が開催されました

昭和大学学士会 真鍋 厚史

3月23日土曜日に両名の退職記念講演会が開催されました。

宮崎隆学部長は『昭和大学での35年を回顧して』という題名で座長を榎宏太郎現歯学部長にお願いしました。講演の内容は歯科医療の重要性を語りつつ歯科材料の刻々と進歩する様子を昭和、平成と経過することにお話し頂きました。その中で最も華々しく発展したデジタルデンティストリーについても研究結果を交え説明して頂きました。後半では昭和大学の歴史と未来像、さらには29校中最も孝熟された学生教育に関してもお話し頂きあつという間の60分でした。

島田幸恵教授は『小児歯科から始まる9020』と題し、座長は大変僭越とは思いましたが不肖私が努めさせて頂きました。講演内容も非常に興味あり前半は乳歯や小児期の成長過程が成人になってからも多大な影響があることをお話されて、なんだか母親教室にでもきているようでした。後半は島田先生の豊富な臨床経験をもとに症例示説と小児歯科医療では絶対に記憶しておかなければいけない知識をお話していただき、私が学生に舞い戻ったかと錯覚するような素晴らしい講演でした。

2時間と短い講演でしたが聴講の方々も多数で講堂がいっぱいになり席がなく立っておられる方もいらっしやるぐらい盛況な退職講演会でした。両先生、本当にお疲れ様でした。



平成31年度科学研究費補助金交付内定状況

研究活動委員会 美島 健二

4月1日、文部科学省と日本学術振興会は、平成31年度科学研究費補助金の交付内定を公表しました。歯学部全体の交付内定状況(4月18日把握分、研究活動スタート支援ならびに挑戦的萌芽研究新規分を除く)は下表の通りで、平成30年度と比較して交付内

定件数としては新規で8件減少したものの、継続件数は5件増加し、交付内定金額の総額は昨年同様1億円を超えました。なお、ご不明な点は、歯学部研究活動委員会、財務部研究支援課にお問い合わせください。

	平成31年度		内定金額
	採択件数		
	新規	継続	
基盤研究A	0	0	0
基盤研究B	3	3	19,300,000
基盤研究C	9	37	44,000,000
若手研究	19	18	48,200,000
研究活動スタート支援	申請中	4	4,400,000
挑戦的萌芽研究	審査中	1	2,300,000
新学術領域研究(研究領域提案型)	0	1	2,200,000
合計	31	64	120,400,000

上條賞を受賞しました

歯科臨床研修医 大竹 開

この度はこのような栄えある賞をお贈りいただきましたことを心から感謝しております。

昭和大学に入学してからの6年間は熱心に教育に取り組んでくださっている先生方、お互い切磋琢磨できる友人、いつも支えてくれた家族のおかげで充実した学生生活を送ることができました。学生生活では、これから先臨床の現場で患者さんの口腔を診る者として学生のうちに学んでおかなければならない様々なことを先生方のご指導の下学んできました。

その集大成である6年生では国家試験を控える中、先生方にはしっかりと内容の練られた授業をしていただき、知識の整理ができることにも何が足りていないのかを早い段階で把握して自分の勉強に反映することができました。また同級生とは同じ環境に置かれた仲間として時には足りない部分を教え合い、お互いに支え合いながら、国家試験を無事に乗り越えることができました。

最後となりますが、今回上條賞をいただくことができたのは多くの方の支えがあってこそだと思っております。これからは臨床の現場に立つ歯科医師として、また昭和大学歯学部卒業生として、日進月歩の医療の世界に取り残されることの無いようにより一層努力して参りますので今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



編集後記

歯科薬理学講座 唐川 亜希子

末筆ではございますが、年度始めのお忙しい中ご寄稿下さいました諸先生方に、深謝申し上げます。